

鹿児島大学医学部長

大脇 哲洋

新入生の皆さん、本日は鹿児島大学医学部医学科および医学部保健学科へのご入学、誠におめでとうございます。皆さんの新たな門出を心よりお祝い申し上げます。

皆さんの多くが高校生活をスタートさせた時期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、思い描いていた高校生活を送ることが難しかったことでしょう。友達と直接会ってコミュニケーションを取る機会も限られ、多くの困難を乗り越えてきたことと思います。しかし、そのような困難な状況の中で、皆さんは粘り強く努力し、今日ここに立つことができました。その経験は、これからの大学生活や将来の医療現場で必ずや役立つことでしょう。

新型コロナウイルス感染拡大初期には、救急車が家の近くで停まり、防護服を着た人たちが家に入っていくのを見たりすると、あの人は感染したんだ、私たちも怖い！と誰もが非常に恐れた時期もありました。私たち医療者の多くは、自身が感染し、死ぬかもしれないという感情の中で、診療を続けました。医療者の中には、家族と別に生活し、病院に通勤した人も多くいました。日本ではピーク時には一日の死亡者数が500人を超えました。これまでに13万人以上がなくなっていますが、このような状況で、医療人としての覚悟を試されている、と感じました。現在も多くの感染患者が入院しています。これから先、同じような新興感染症は必ず起こります。その時、医療者になった君たちが、どのような感情で、どう動くのか、何かと理由を着けて避けるのか、自身を奮い立たせて立ち向かうのか、じっくりと考えてみてください。皆さんはそのような利他的な仕事を選び、この鹿児島大学に入学したのです。その自覚を持ち、これからの学びに励んでください。決して自分を犠牲にしてまで頑張れというのではなく、気持ちの底に、利他的な考えをもって行動してほしいということです。

医療の世界に飛び込み、患者のために精進しようとする気概を持った皆さんは、これからの学びの中で多くのことを吸収し、成長していくことでしょう。スマート

フォンや SNS に囲まれて育った皆さんにとって、問題を抱える患者との直接のコミュニケーションは難しいかもしれません。しかし、医療現場ではそのようなコミュニケーションが非常に重要です。患者の声に耳を傾け、心を通わせることが求められます。世界の情勢が、ナショナリズムの台頭により閉鎖的になり、多様性を失いつつある中で、人と人との交流がますます重要になっています。医療の現場でも、多様な背景を持つ患者や同僚との交流が求められます。

皆さんはこれまで、頑張ればなんとかなるという環境で育ってきたかもしれません。しかし、医療の世界では、頑張ってもどうにもならない現実と直面することもあります。そのような時こそ、医療者としての真価が問われるのです。看護師はまだまだ不足している一方で、医師は過剰になりつつあります。医師としての道を選んだ皆さんは、生涯にわたり学び続ける覚悟が必要です。

我々医学部の教員の多くは、現役の医療者が多く、大学病院や学外の病院で診療し、研究し、そして君たちの教育を行っています。教育者であると同時に、君たちが卒業した後は、医療者として、研究者としての指導者であり、同僚になります。学生の君たちを十分教育し、将来共に働く医療者や研究者に育てあげ、国民の健康を共に護る同士を育成しているのです。こうした意味では、この大学での出会いは生涯にわたり続くものなのです。

改めて、昭和 100 年のこの節目の年に、ご入学おめでとうございます。皆さんの未来が輝かしいものであることを心より願っております。共に学び、共に成長し、素晴らしい医療人として社会に貢献していきましょう。

令和 7 年 4 月 2 日

鹿児島大学医学部長 大脇哲洋